

ねじりはちまき

11月 霜月 立冬 小雪の月になりました。

11月3日文化の日、7日立冬、15日七五三、20日旧えびす講、23日勤労感謝の日、この日は天皇がその年の新穀を宮中で神殿に供え、自分からもこれを食して収穫を感謝すると共に翌年の豊作を祈るという皇室の最も重要な祭儀です。1873年、太陽暦が採用になってからは11月23日と定められ、戦後は勤労感謝の日となりましたが、祭儀は現在でも皇室では行われています。この日は、国民の祝日としてすべての職業、職種の人達が勤労によって生み出されたものを祝い、みんなで感謝をする日となっております。いよいよ今年も寒くなり、火の用心に気をつけて風邪など引かないようご自愛ください。

幸田 常一

<会社近況>

今年も残り2カ月を切りました。一年は早いものですね。

現在、本宮市と二本松市の現場で住宅新築工事をお世話になっております。

新しい仲間が加わりました。根本誠です。本宮市に住んでいます。

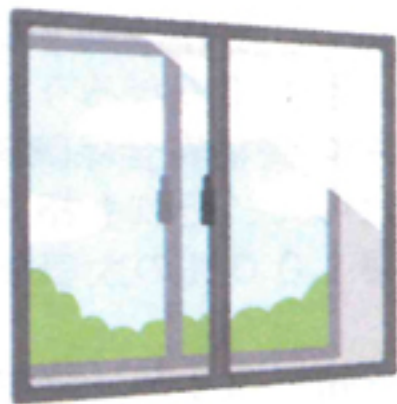
皆様よろしく申し上げます。



<冬の寒さ対策>暖かい部屋づくり

寒さ対策といえば、みなさん思い浮かぶのは主に、窓と床ではないでしょうか。冷気が窓から入るのを、断熱シートで防いだり、床にジョイントマットを敷いて床下からの寒さを軽減させるのが一番多い対処法ですね。

※省エネ対策として、国の政策による補助金制度があります。子育てエコホーム、窓リノベなどの補助金制度を利用し、断熱の為に工事等を考えてみてはいかがでしょうか。



<旬のもの>11月 ながいも

今、ながいもが旬を迎えています。ビタミンB1が豊富で、食物繊維が豊富なため、腸内環境を整える効果があるそうです。カリウム、ビタミンCも多く含まれるので風邪予防や、疲労回復にも効果的です。調理する際、加熱するよりも、生のままで食べるほうが酵素アミラーゼが失われずに摂取できるそうです。ですので、とろろにして食べると栄養価も良い状態で摂取できそうですね。



令和6年11月5日発行

<発行責任者>幸田 久美

有限会社 幸田建設

969-1204 本宮市糠沢字八幡 1-1

電話 0243-44-3816

<後記> 今年の冬は、昨年よりも寒さ

が、増す予報だそうです。タイヤ交換や、

寒さ対策などを、雪が降る前に準備して

おきたいですね。

(ほしの)

米のことについて

今年の夏はご承知の通り、米の消費量が減る中で、ちょっとした米騒動があった。全国的に米が店頭から消えたのである。そして米の値段が急に高くなった。大阪府知事が政府に備蓄米の放出を要請したが、政府は動かさず仕舞いだった。新米が出回れば状態は落ち着くという説明だった（市場価格に影響を与えたくないとの思惑あったか）。だが、新米が出回るようになってからも値段は高値に推移している。JAの米買取り価格も去年より高くなっている。集荷業者も荷（新米）が思うように集まらず、業者間の競争で価格は高めになっているとのこと。考えてみれば、米の値段は市場価格で決まるが、今までの安すぎたのだといえる。需給バランス（消費量が伸びない）から、どうしても市場価格は安く推移してきたのであった。このことは、生産者にとっては、コスト割れ寸前の状態が続いてきたことを示す。米価格の上昇は消費者にとっては打撃であるが、全体的に物価が上昇している中で米だけを例外にしておくのはどうかという問題もある。米生産者も減ってきているようだ。高齢化で、生産委託している農家も増えているし、耕作放棄となっている田も目立つようになってきている。それにしても米の将来はどうなるのだろうか。そんなことを考えていたら、「国内資源を最大限に活用し、循環型社会の食糧安全保障政策を」を唱えている鈴木宣弘（東京大学院教授）氏のご意見を眼にしたので、それも紹介しながら米を巡る情勢について考えてみたいと思う。なんせ米は自給率100%の大切な食料なのですから。

1. 食糧管理法の時代

米は長らく「食糧管理法」の下にあったのはご存知だろうか。政府が生産者から米を買い入れ、消費者に売る仕組みである。この法律は、食糧（主に米）不足が深刻だった戦時下の1942年（昭和17年）に制定された。この法律の下で、生産者から米を買い入れる際は強制力が伴っていた（供出制度）し、消費者への売り渡しは米穀通帳の下一定量（配給制度）であった。そして価格（生産者価格・消費者価格）は政府が定める。食糧管理法は、戦後の食糧不足の時代も一定の役割を果たしていた。そしてやがて国内で食糧（米）増産がなされ、安定していく一方、食の洋風化、多様化が進んでいく中（コメ離れ）で、米を巡る情勢が変化する。政府管理の米が余る（供給過剰）ようになり、国の赤字も膨らむ一方となった。つまり、政府による米管理には限界があるとされ、実情に合わなくなったため、1995年（平成7年）に食糧管理制度は廃止された。

(注)①1969年（昭和44年）に政府を通さずに流通する米を一部認めた。自主流通する制度が発足すると米穀通帳制度は形骸化していく。

②1982年（昭和57年）に自主流通制度が法定化される。配給制度が廃止される（米穀通帳の発行廃止）。

2. 米の生産と消費の推移

では、我が国の米の生産と消費の推移は数字で見るとどのようなになっているのか。

- ①米生産農家数：1970年（昭和45年）→ 約466万戸
2020年（令和2年）→ 約70万戸 *50年間で7割減
- ②米の生産量：1970年（昭和45年）→ 約1253万トン
2020年（令和2年）→ 約776万トン *50年間4割減
- ③米の消費量：1962年（昭和37年）→ 約118.3kg *年間一人当たり
2020年（令和2年）→ 約50.7kg 半分以下に減少

3. 米の生産調整（減反政策）

米の生産と消費の推移を数字で見ると2の通りであるが、消費量に対して生産過剰の状態となり、政府管理米も赤字を累積する事態となった。そこで、政府は昭和40年代前半から米の生産を抑制する生産調整（生産数量を割り当てる）に着手したのである。い

いわゆる減反政策である。これは始め休耕することでスタートしたが、稲以外の作物に転作を奨励する（補助金交付）など数次にわたる各種の振興対策が講じられてきている。しかし、政府による生産調整政策については次第に行き詰まっていく。生産調整面積が増加し、生産調整が強化されているにも関わらず、需給調整の効果はなく、米価が下落し続けるのであった。米価は昭和61年産米の18505円（60kg）をピークに下落し続け、平成15年産米は13748円まで下落した。ここにきて、米の生産調整政策には、限界感が漂い始めたのである。

4. 減反政策の廃止と生産者の選択

米の生産調整政策に行き詰まった政府は、2018年(平成30年)に行政による生産数量目標の配分を廃止することにし、いわゆる減反政策は廃止された。生産者は、それぞれの地域の特性を考慮し、自らの経営判断（自己責任）により、需要に応じた米の生産と販売を行うこととなったのである。自らの経営判断とは言え、所属するJAの方針の兼ね合いもあろうし、また法人であれば法人としての経営方針に則り選択の道は決められることになる。各経営体の自由度は高まったといえるのだが、果たしてどうか。

4. 米の今後と食糧安全保障

先に紹介した鈴木宣弘教授は、次のように提唱する。

- ①日本の食糧自給率（カロリーベース）は38%であるが、「食料はお金を出せば輸入できる」ことを前提にした食糧安全保障ではもう通用しないことが明白になっている（ロシアのウクライナ侵攻での小麦を巡る世界の食糧危機）。
- ②食料輸入が途絶する不測の事態が起きた時に、国民の命を守るため、国内で食料を確保する必要がある、その役目を果たすのは自給率100%の米である。従い、米の自給を確保するためには、農業が疲弊しまうような政策をとってはならない。
- ③「日本の食事を洋風から、米を主食とする和食に切り替えるだけで、日本の自給率は63%になる」という農林水産省の試算が示されている。そのためには、米中心の食生活を普及させることが肝要であり、またそのことにより米消費量が増えるので、農家の水田稲作が活性化され、経営安定により将来とも維持されていくことになる。
- ④水田稲作は少ない肥料で高い収量が挙げられるため、環境保全に役立つ。日本が世界に誇るべき農法である。また、水稻には連作障害が起こらないという特徴がある。さらに、水田稲作（田園風景も含め）は日本文化の礎であって、精神的にも価値がある。
- ⑤日本は食料の大半を輸入に依存しているにもかかわらず、輸入食品への安全基準が緩い状況にある。このことは余り報道されることもないので、国民は余り知らない状態に置かれている。（注）小麦栽培に使用されている農薬「グリホサート」の例

以上米を巡る状況について書いてみましたがいかがでしょうか。今回はこれで終わります。

今季最後の北アルプス 霞沢岳、餓鬼岳

(百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山、カッコ内の数字は標高。上、2段目、下、左、右などは写真の位置)

【今回登った山】

9月18日 霞沢岳 (◎かすみさわだけ 2646m) 飛騨山脈南部の長野県側、梓(あずさ)川上流に位置する松本市の有名な観光地上高地にある。

10月1日 餓鬼岳 (◎がきだけ 2647m) 常念山脈の北端に位置し、槍ヶ岳へ向かう表銀座コースとは反対方向に当たる。

霞沢岳

日本二百名山霞沢岳には、上高地から徳本峠(とくごうとうげ)小屋に連泊して登る。若い人は日帰りや小屋一泊で登る山だ。小屋は国の登録有形文化財に指定されていて創設百年になる。この小屋に宿泊するのも目的の一つだ。

9月16日(月)

自宅11:15発、今回は東北道、北関東道、関越道、上信越道を経由し、長野道松本ICで降りた。

松本ICからR158を西に、松本電鉄沿いに緩やかな傾斜の道路を進んで行く。沢渡(さわんど)に17時着。上高地まではマイカーでは行けず、沢渡でバスかタクシーに乗り換える必要がある。

20年近く前に穂高岳や槍ヶ岳に登った時も沢渡を経由したが、以前は駐車場がもう少し広々とした所にあっただと思っていたが、今回は山間で圧迫感を感じる、自分の思い違いか。ここが一番手前の沢渡大橋駐車場(下2枚)、バスの始発。霧雨で時間も押していたのでここに停める。料金は4日分2800円。コンビニ弁当で夕食。20時前に就寝。



17日(火)

7:03 発の始発のバスに乗る、霧雨。登山者が自分を入れて3人、観光の人が6人ほどだ。30分ほどで上高地バスターミナル着。天候がすぐれず早朝なのでまだ閑散としている(次頁上左)。梓川の左岸沿いに河童橋を目指す(次頁上右)。河童橋でバス同乗の登山者に撮って貰う(2段目右)。河童橋を渡らず

に左岸を進んだら赤い標識があった（2段目左）。



小梨平キャンプ場から先、明神までの左岸歩道は、土砂災害のため通行できないと書いてある。

河童橋まで戻り橋を渡って右岸の遊歩道を上流に進んで行く（3段目左）。
変転流転する水面の文様がきれいだ（3段目右）。



渡る（下）。



明神橋を明神館側、左岸に

明神館ではこれから出発する人たちが準備をしていた（次頁上左）。



明神館の脇を通り右手の先に三叉路の分岐があり、ほとんどの人は左手の徳沢・横尾方向に進む。自分は右手徳本峠方向に進む（右上）。9:30。



小さな沢を何度か渡る（左3段目）。



林道では流された橋の修復工事の途中だった（左2段目）。しばらく行くと林道から離れ左手の山道に入っていく。



翌日の下見を兼ねて霞沢岳方向に5分ほど進むと小屋からの別の道と合流し小屋方向に戻る。途中の展望台から穂高岳方面の眺望は得られなかった。

11:35 分岐に達する（右2段目）。徳本峠 0.2 km、霞沢岳 4.3 km、明神 3.6 km とあった。



12:35 徳本峠小屋に着く（下左、2135m）。掘っ立て小屋のような手前の部分が創設百年の本館で奥の赤い屋根の部分が新館。小屋の前が蝶ヶ岳方面との分岐になっている（下右）。



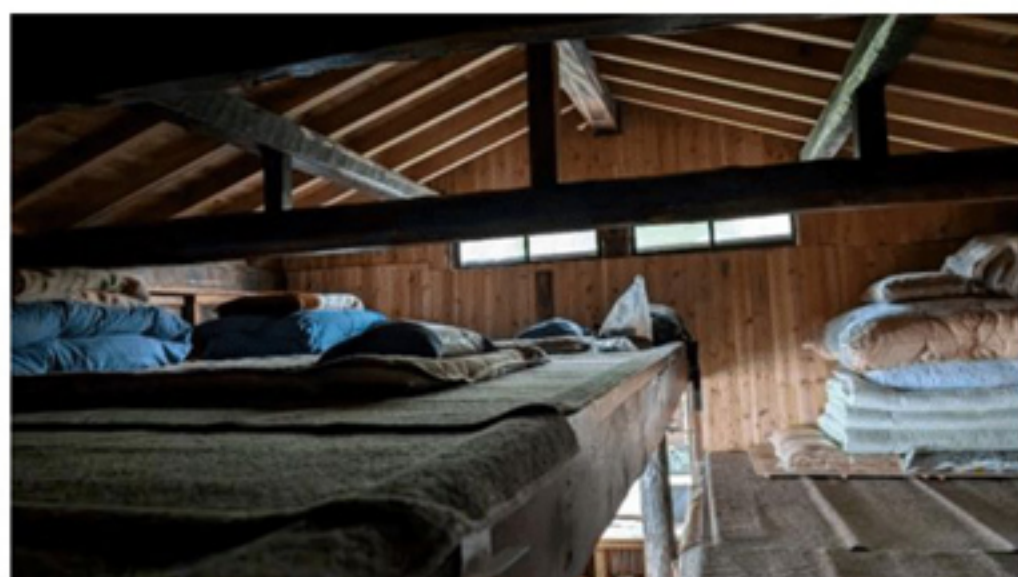
受付を済ませ2泊分3万円と翌日の弁当代1800円を支払い、部屋に案内してもらった。団体が入っているとかで、自分は本館（※）に一人だった。願ってもない物凄くラッキーだった。

（※）徳本峠は島々谷から上高地へのメインルートとして開かれた峠道で小屋



ができる前、ウォルター・ウエストン、高村光太郎・千恵子、芥川龍之介などもこの峠道を越えて上高地に向かった。小屋の営業は大正12（1923）年。昨年で創設百年。2011年に「山小屋初期の形態をとどめている」として国登録有形文化財に指定された（上）。プレートには「この

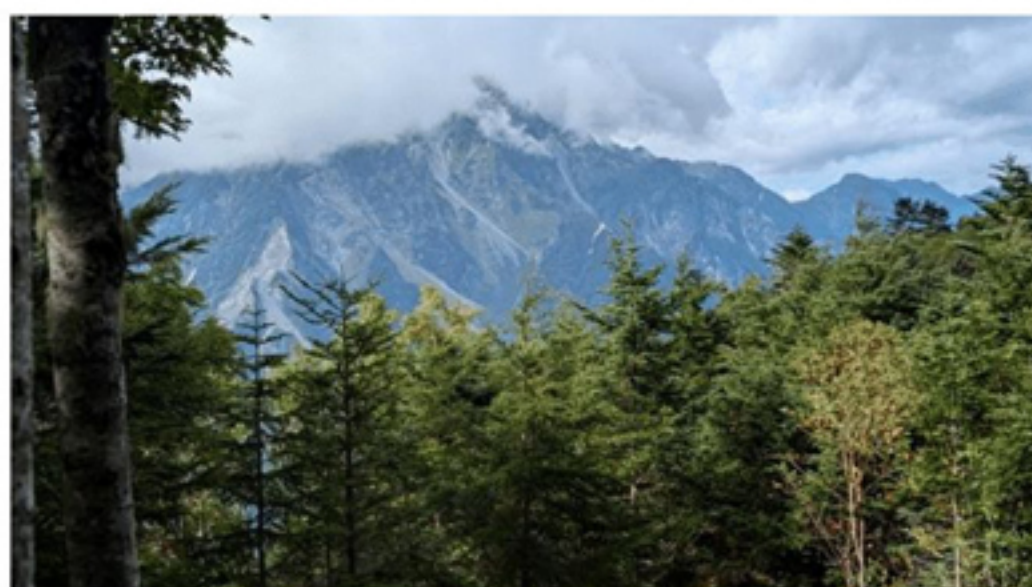
建造物は貴重な国民的財産です 文化庁」と記されている。



平屋建て三層構造の3階部分の窓際に指定された。手前の梁に何度か頭をぶつけ、貴重な記念のコブを貰ってきた（2段目）。

案内してくれた若者はなんと福島出身とのこと。幼稚園まで福島にいて、父の

勤務の関係で東北や新潟各地に住んだという。現在両親は宮城県南部に居住し、帰省の際は北陸道を使うなど共通の話題で盛り上がった。



小屋の前から梓川の対岸穂高連峰を望むが上部は雲で覆われ、見えているのは明神岳（2931m）か？右奥に見えているのは大天井岳（◎2922m）か？（下）。

16時半頃、ツアーの団体客十数名が到着した。ガイドさんが2名、添乗員が1

名ついてた。中高年の人が多い。新宿バスターミナル発着の一泊2日の霞沢岳登山のツアーで、居住地はバラバラで新幹線で東京に出て前泊した大阪の人もいた。霞沢岳のツアー催行は数少ないとのこと。

食事も賑やかだった。消灯20:30。

18日（水）

ツアーの団体さんは5:30からの食事は摂らずに、4:30、ランプを点けて出発して行った。霞沢岳を登って14時までに上高地に待つバスに乗り、夜新宿バスタで解散とのこと。かなりの強行軍だ。

自分はツアーを利用したのは30年以上前の富士山だけで、ほとんどいつも一人なので他人に合わせることは不得手だ。落伍者になって皆に迷惑をかけるだろう。

5時半からの朝食を食べ弁当を貰い6:00に出発する。自分は連泊なので気分的にはすごく楽だ。福島出身の彼に写真を撮って貰う。

ヘッドランプは点けたが樹林の中も明るくなってきた。結構急な道を歩き、ジャンクションピーク（2428m）に7:23着、ゆっくりペースだ。写真は穂高連峰と反対側の山々、奥は乗鞍岳方面か？ 紅葉は始まったばかりだ（上）。



霞沢岳の標高は2646mなのでこのピークとの標高差は200m 足らずなのだが、ここからゆっくりと下って行く（=復路は長い登りになる）。2261mの小湿地 8:13 通過（下左）、さらに下って行くとクマの糞があった（下右）。



左手に薙（なぎ※）を見てアップダウンを繰り返しながら登って行く。急で屈曲のある狭いガレ場を登っているとき、4:30に出発したツアーの団体さん一行が下りてきた。こちらは一人、道をあけてグループを通す。先を急ぐガイドさんの仕切りだ。

※薙：山の一部分が崩れて横に切り払ったようになっている所。

急なガレ場を登り切ってK1ピーク（2567m）に達する、10:45着。ガスで眺望

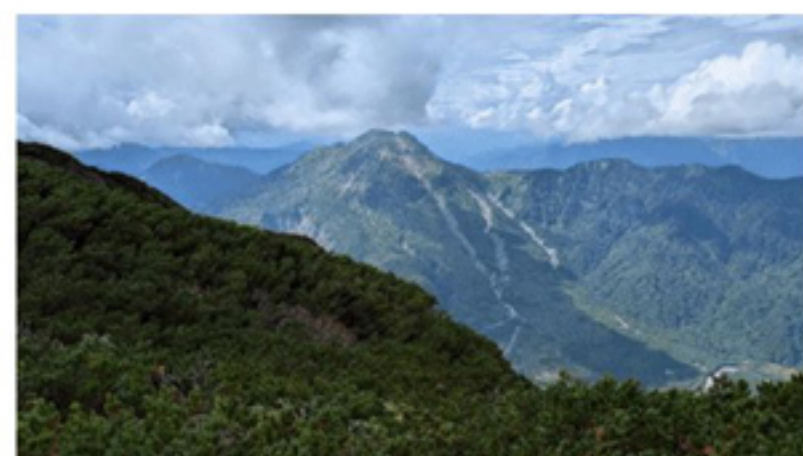


はない（上）。ここからいったん下り、登りかえしてピークに達するがK2の標識は見つからなかった、11:25。

少し下り、登り返して12:00、日本二百名山霞沢岳山頂着（2段目）。出発から6時間かかった。ガスで眺望はない。



寒いですが風は強くないので小屋の弁当を食べる。復路でのシャリバテは避けたい。12:30下山開始。



少し下ったところからガスが取れて、荒々しい焼岳（百 2455m）が見えた（3段目）。

ラッキー!!

登るときには気が付かなかったが、シラタマノキなどがあった（下）。





北側の山並み。左下に梓川も見える（上）。

13:35、K1 ピークまで戻り霞沢岳山頂方向を振り返る。今度は良く見えた。写真中央がK2、山頂はその右奥（下）。



14:20 雷雨。雷は少し遠く、樹林帯の中なので大丈夫だろうと判断した。再びカップを着ける。まだ先は長いが小屋泊りなので焦る必要はない。ジャンクションピーク 16:20。小屋には 17:20 着。出発から 11 時間 20 分。ケガをしないで霞沢岳登頂を達成できたのを幸いとするしかない。

福島出身の人とは違う若い男性が迎えてくれた。小屋裏手の乾燥室に直行して着替える。

食事は既に始まっていて山談義で盛り上がっていた。女性二人との相席を指定されていた。飲みながら話したら、三重県の 6 人グループの人達で翌日霞沢岳に登るとのことだった。自分は藤原岳（○1140m）や御在所岳（◎1212m）の話をし、二人は安達太良山や磐梯山、飯豊山のことなどを話した。馬刺しの話も出て、会津若松の懇意にしているお店を教えた。リーダーは 78 歳の男性でかくしゃくとしていた。

宿泊客の中には霞沢岳に登るのでなく徳本峠小屋泊が目的の中年女性 4 人のグループもいた。自分は翌日は下山なので気を許して日本酒も頂いた。ワンカ

ップ 600 円 (上)。おいしかった。下界に下りてからお土産に買った。



19 日 (木)

三重県の 6 人グループは小屋の朝食を摂らずに、霧雨の中カッパを着けて 5 時前に出発して行った。自分は 5:30 からの朝食をゆっくりいただいた。新館の食堂の様子 (2 段目)。



雨が強くなってきた。6 時半前に三重県の 6 人グループが下山してきた。ジャンクションピークまで行かずに引き返してきたとのこと。少し様子を見るとのこと。

自分は雨が弱くなってきたので 7:15 下山を始める。三重県の人達はまだ準備していなかったのか、どうしたのだろうか？ 日の短い今の時期は出発のタイミングを外すと登るのに相当な覚悟が必要だ。

何度か滑って転んだがケガもなく、雨も止んできて 9 時、明神館に着き、自分へのご褒美にソフトクリームを食べた。明神岳 (2931m) と明神橋を写真に収める (下)。遊歩道には、天気が良くないにもかかわらず観光の人達、特に外国の人達が多いと感じた。



バスターミナルでお土産を買い沢渡に戻る。R158 沿いで信州ソバを食べ、大雪溪を買い、餓鬼岳の白沢登山口に向かう。確認するのに時間がかかり、北陸道で事故の渋滞に巻き込まれ帰宅したのは 22 時を回っていた。

餓鬼岳

餓鬼とは常に飢えと乾きに苦しむ仏教上の伝承。餓鬼岳という名に恐れをなして北アルプスの中でも登るのがなんとなく後回しになっていた。いよいよ日本三百名山の残りが少なくなり避けて通れなくなってきた。

日が短くなり来年に回すということも考えたが、小屋に泊まれば今年でも十分可能ではないかと考えた。ただ19日の登山口下見の状況では駐車場が3台しか停められず、ほんとに餓鬼岳小屋が営業しているのか不安になり、再度調べなおすことにした。帰宅後小屋の営業を再確認し予約する。

9月30日(月)

自宅9:45発、今回は磐越道、北陸道糸魚川IC経由で国営アルプスあづみの公園大町・松川地区を目指す。

15:45 白沢登山口着。トイレのある一番近い駐車場には3台停まっていた。



に従い進む。

少し手前の1台分しか置けない所に駐車する(上)。さらに手前にも車の置ける場所はあった。翌日は暗いうちに出発するため下見をする。標識(右上)



林道は実際の登山口の所で行き止まりになっていて餓鬼岳は右方向の矢印が示されている(左2段目)、標高993m。翌日標高差1654mを登ることになる。

看板の中央下に「北アルプス餓鬼岳小屋」の小さなプレートがぶら下がっていた(下)。「ここは餓鬼岳登山口 心して登られよ！」と書かれている。



標識に従い壊れた梯子を下り山に入っていく(次頁上左)。歩いて行くと沢に出る。沢に架かる橋を渡る(次頁上右)。

この橋にも小屋のプレートがあった(次頁右2段目)。



ここまで確認し下見を終えて車に戻る。

動物の鳴き声が聞こえてきた。猿よりも野太く少し長い。鹿か？人間の進入を仲間に知らせているのだろう。

コンビニで買ったカツ丼を食べようとしたら、「必ず温めてください」と書いてあったが、スタッフに聞かれもしなかったのでそのまま購入してしまった。いざ食べてみると、半解凍のポロポロしたご飯で煮込みかつも冷たかった。翌日の山行のために無理して咀嚼して残さず食べた。

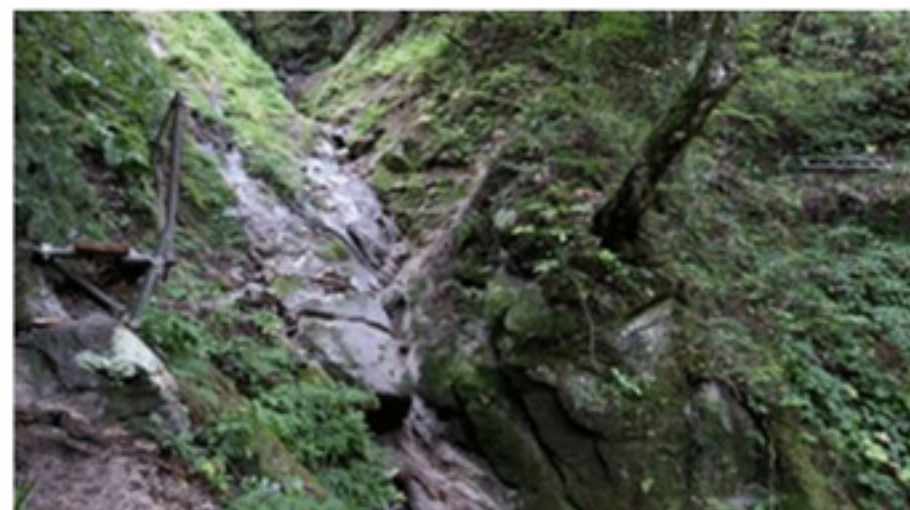
10月1日（火）

4時起床。準備していたらより遠くに車を停めていた2人連れが出発して行った。自分もランプを点けて5時出発。前日に下見をしているのでスムーズに斜めに登る橋を渡り沢沿いに進んで行く。頭上の木にもプレートが下がっていた（右3段目）。



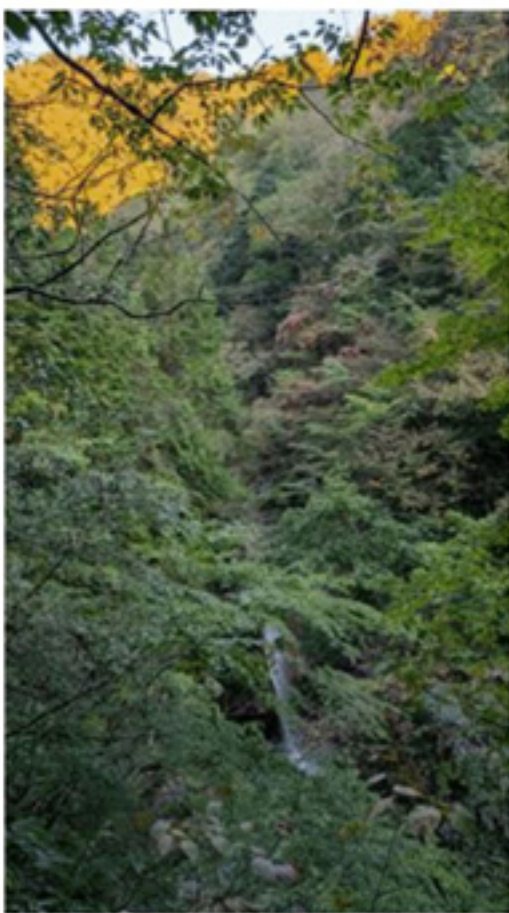
明るくなってきた。危ない所は整備されていた（下左）。

小さな沢も何度か渡る（下右）。





今度は黄色の英語のプレートがあった（上）。樹間に朝日を浴びた稜線と「紅葉の滝」が見えた（左2段目）。まだ紅葉は進んでいない。この辺りから河原に降りて赤テープを頼りに何度か渡渉する（右上）。



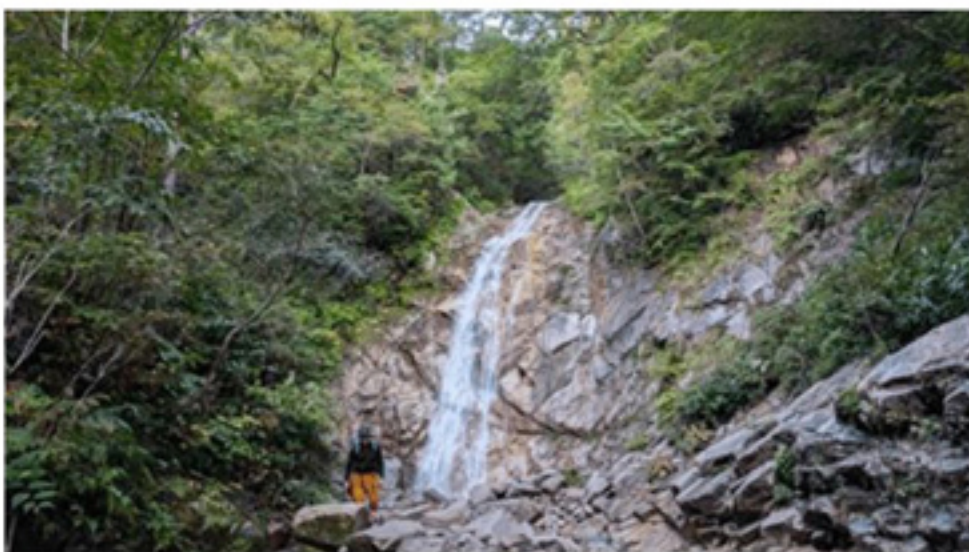
「餓鬼が潜むコケ道 注意して登られよ！」のプレート（右2段目）を見た直後！斜めの岩のコケで滑ってしまい



危うく滝つぼに落ちてしまうところだった（左3段目）。ストックは何とか下流で回収する。



「まだまだ先は長い 決して焦るでない！」のプレート（右3段目）。自分の行動が見透かされている。

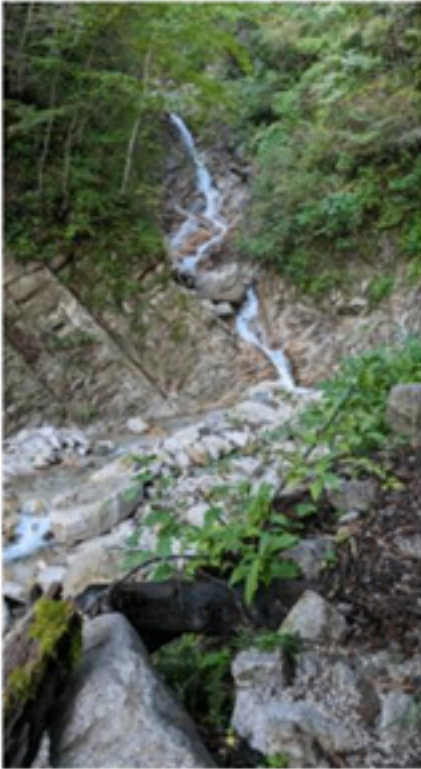


魚止めの滝（下）。先行の登山者がいた。左側の山に入る。

何本か小さな滝が沢に流れこむ。面白い（次頁上左2枚）。

7:05 中洲的な小広い岩場で朝食休憩。天気よくウキウキ

してくる。(上右)。



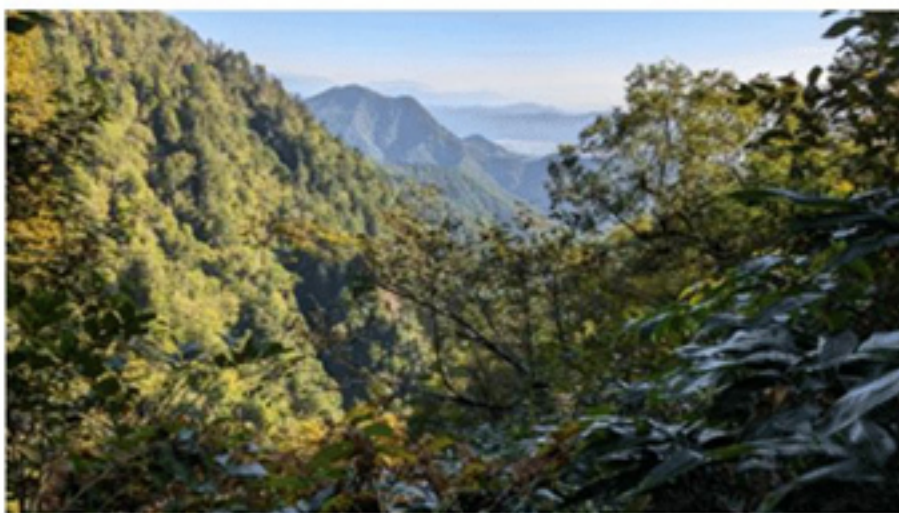
最終水場の標識(2段目)を経ると樹林の中の急坂となりひたすらジグザグに登って行く。

「修験道の道ようだ」と何かに書いてあった。



かなり登ったところの踊り場から東側の眺望があった、8:20(3段目)。

道が緩やかになり主尾根の稜線に出て少し行くと大風山(おおなぎさん 2079m)山頂標識着 10:22(下)。スタートしてから既に5時間以上経過している。木々に覆われて顕



著なピークもなく山頂らしさは感じない。一休みしていると二人の中年男性が下りてきた。標識には山頂まで2時間半と書いてあるが、とてもこの時間では着かないとのこと。

大風山からは道は緩やかにアップダウンを繰り返しながら登って行く。



11:50 下山してきた二人の若い女性とすれ違う。私が車の所で準備していた時一足先に 4:30 に白沢登山口を出発した人達で、日帰りの人だ。若い人にはかなわない。



12時過ぎ、「餓鬼岳は厳しいトレイルだ。強い意志と体力が命を救う」と書かれたプレートを通り過ぎる（上）。

正面の樹間から餓鬼岳の山腹が見えてくると「百曲り入口」の標識に着く（2段目）、



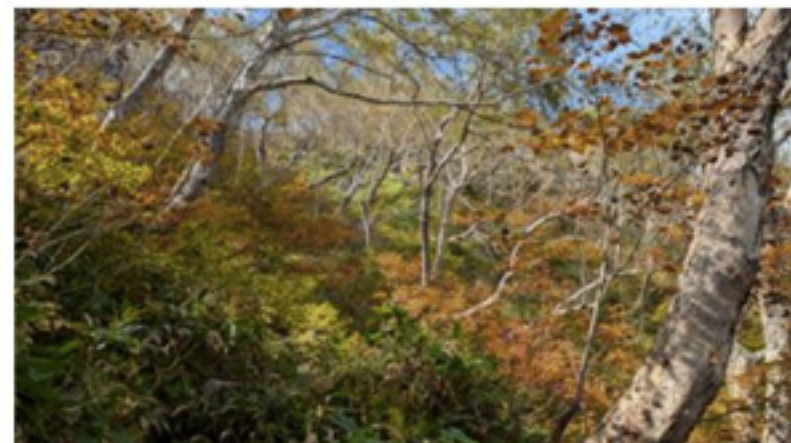
12:53。ジグザグの急登を登って行く。「厳しい道のりぞ 心して登られよ！」のプレート（右上）。



「餓鬼が潜む！ 転落！ 滑落注意ぞ！」のプレート（左3段目）。



紅葉が少し進んでいる（右2段目）



小屋までの時間が示されている（左下）。餓鬼岳小屋着 14:27。山頂まではすぐだ。

望はいまいち。所要9時間40分。長唐沢岳（2632m）方面とスケッチす左）。燕岳（◎2763m）方向（次頁上人も5～6人いた）。

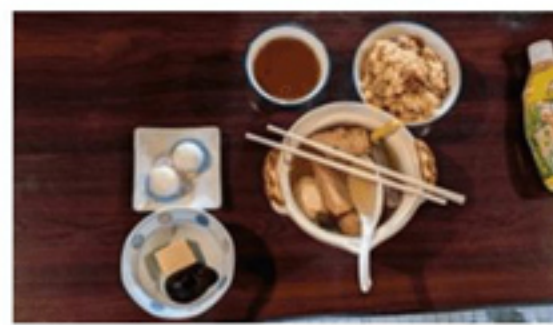


14:40、日本二百名山、標高2647m 餓鬼岳山頂着（下）。ガスで眺

かった。見る若者（次頁上右）。テント泊の



30分程山頂を楽しみ小屋に戻る。
 小屋の内部、一間だけ（2段目左）、食事の後に布団が敷かれる。
 17時から夕食。おでんと味ご飯がメイン（2段目右）。



食事は宿泊者 5 名のほかにテント泊の女性が一人いた。

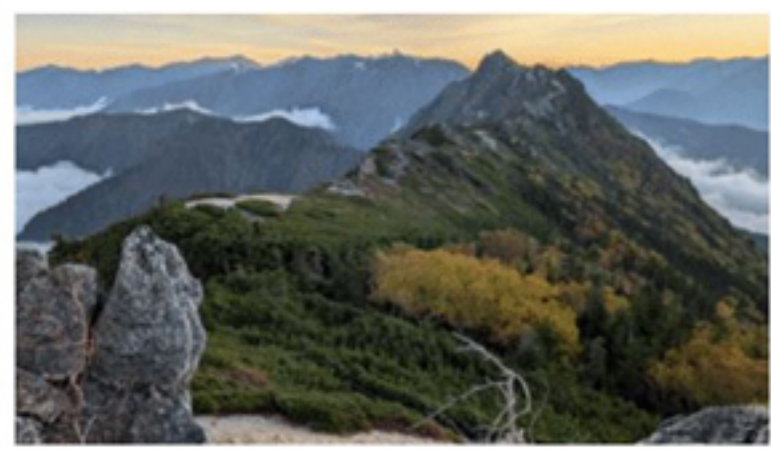
宿泊記念に餓鬼岳の御札を頂く（左 3



段目)。

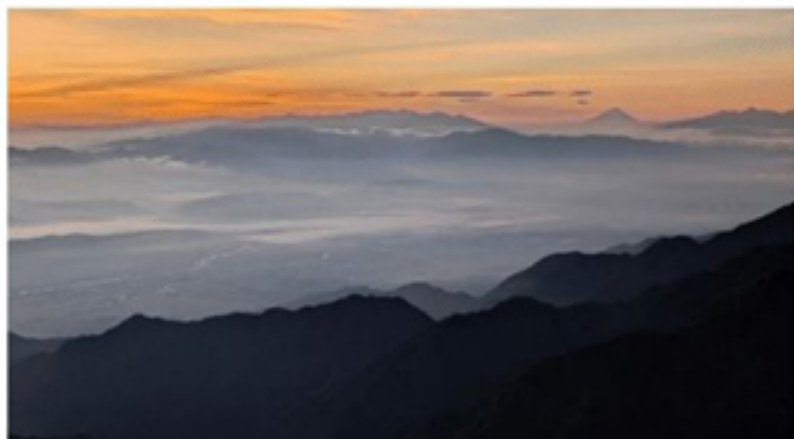
夕食後外に出てみる、小屋前の小高い広場から暮れなずむ北アルプスの景観を楽しむ。赤い屋根の小屋の上が餓鬼岳山頂（下左）。山頂に数人が見える。（下右）中央奥に槍ヶ岳の突起が見える。写真では見えにくい。

布団に入りしばし山談義。同宿者のうち 3 人は唐沢岳往復後（約 5 時間）に白沢口へ、一人は中房方面に下山とのこと。いずれも体力を要する山行だ。各県百名山を目標に登っている人もいて、福島県の浜通りの山の話も出た。標高 2600m の夜は冷える、毛布と布団をかぶり早めに就寝。

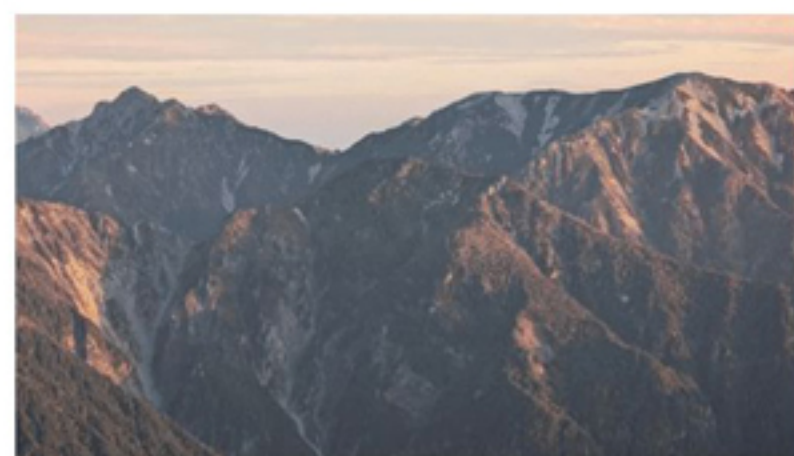
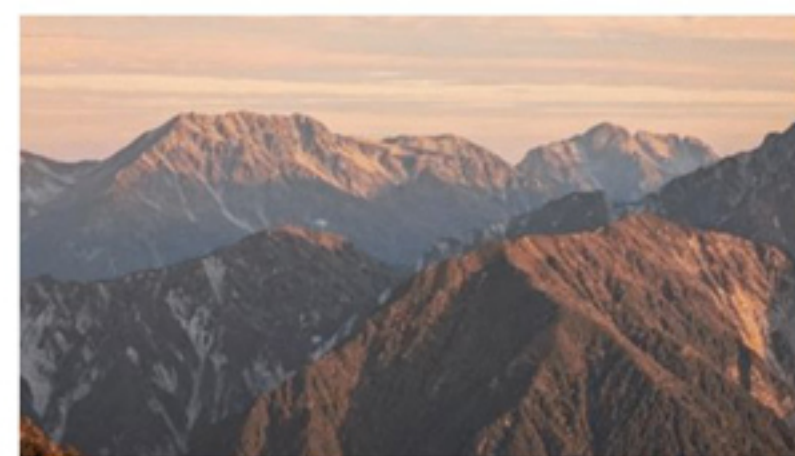
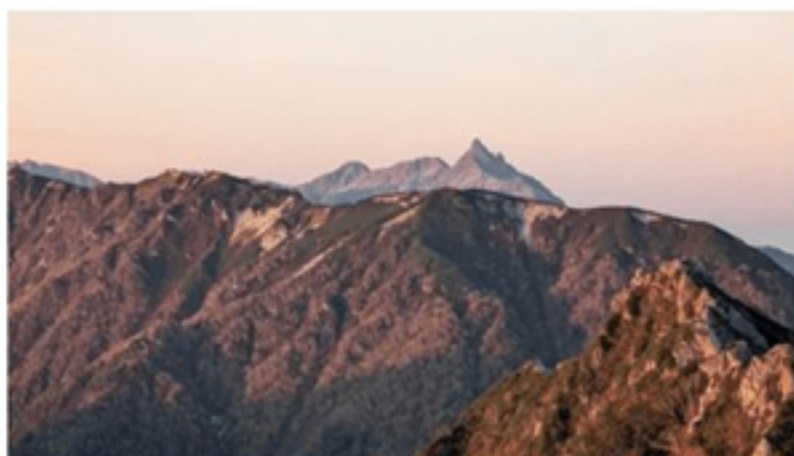


10月2日(水)

4時起床、5時朝食。食後山頂に向かう。(上左)南方向の夜明け前。富士山は右奥。(上右)東方向の浅間山山頂付近から昇る太陽。

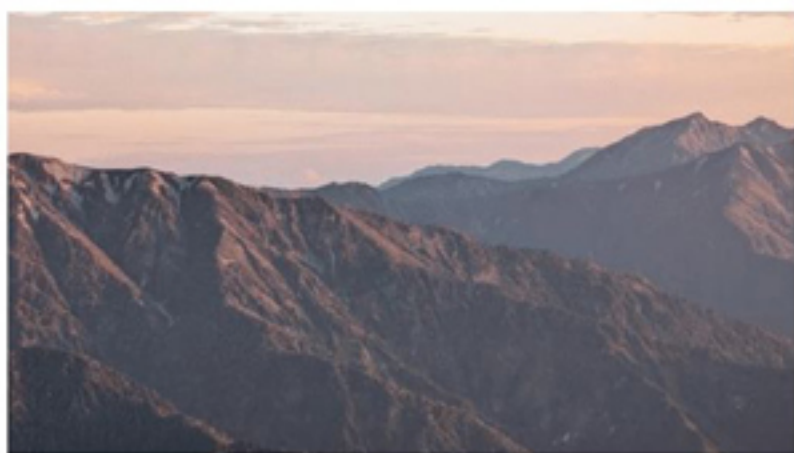


(2段目左。ズーム以下同じ)。朝日に映える槍ヶ岳。(2段目右)立山連峰左奥、剣岳右奥。劔岳手前の右へ上がる稜線は針ノ木岳への稜線。



(3段目)写真左の鋭鋒が針ノ木岳、鞍部を挟んで右の穏やかな山が蓮華岳。鞍部に構造物の針ノ木小屋が見える気がする。

(下)写真左の手前右へ下る蓮華岳東尾根の右奥に鹿島槍ヶ岳の双耳峰、手前に爺ヶ岳。



朝焼けの名峰を十分に楽しみ満足する。

名残は尽きないが6:30下山開始、往路を戻る。大曲までの急坂、大風山までの緩やかなアップダウン、魚止ノ滝までの修験道のような急傾斜のジグ

ザグの道、樹林の中の眺望のない道をひたすら下る。白沢のいくつかの滝の眺めや渡渉、などを経て12時半駐車場着。所要6時間。

天候に恵まれた日本二百名山餓鬼岳山行を無事終える。糸魚川 IC から北陸道、磐越道経由で 19 時半ごろ帰宅。

令和 6 年 11 月 NO132 アンチ・エイジング 山旅遊人

日本三百名山（百名山、二百名山を含む）未踏の山

前回以降、霞沢岳と餓鬼岳を登ったので、日本三百名山未踏の山としては、新潟焼山と南アルプスの鋸岳の二つが残ることになるが、山頂を踏んでいない山があることが気になってきた。

2 年前の、9/11～9/22 にかけて北海道の天塩岳（◎1558m）など 7 座を登った際に、狩場山に登ったが、山頂近くで赤いヒグマに遭遇し、引き返した。GPS で距離 500m、標高差 50m だった。これを登ったことにしていた。

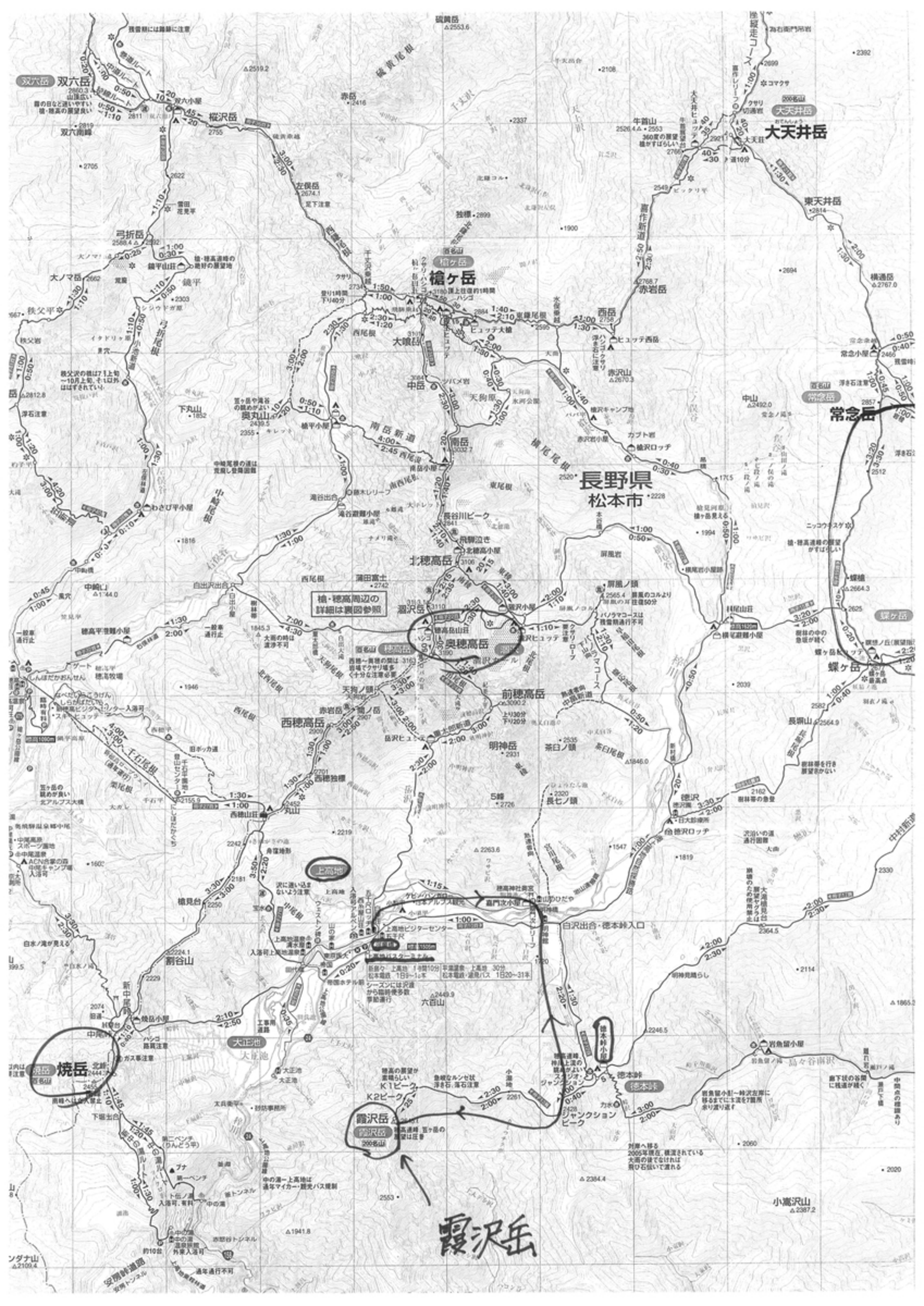
桜島（◎北岳 1117m）のように火山の噴火により登山規制がされている山は仕方がないとして、狩場山は登山規制されていない。

このことから日本三百名山残りの山は、焼山、鋸岳と狩場山の 3 座になる。来年の夏場に、最後は狩場山にし、クマが近づかないように 4、5 人でにぎやかに登り日本三百名山踏破の記念にしたいと思っている。

- ① 焼山（○やけやま 2400m）新潟県西部。笹倉温泉から日帰り。距離が長い。
- ② 鋸岳（◎のこぎりだけ 2685m）南アルプス北端、甲斐駒ヶ岳の隣。釜無川沿いの林道→横岳峠→第一高点（鋸岳）往復。テント 1 泊か 2 泊か要検討。
- ③ 狩場山（○かりばやま 1520m）北海道島牧村、せたな町。クマ対策要。

今回の記念バッジ





双六岳
2860.3
山頂広
昔の白など美しい
雪・積雪の展望良い

大天井岳
2996.3
山頂広
昔の白など美しい
雪・積雪の展望良い

槍ヶ岳
3180
山頂広
昔の白など美しい
雪・積雪の展望良い

長野県
松本市

槍ヶ岳周辺の
詳細は裏面参照

奥穂高岳
3190
山頂広
昔の白など美しい
雪・積雪の展望良い

上高地

K1ピーク
K2ピーク

霞沢岳

双六岳
2860.3
山頂広
昔の白など美しい
雪・積雪の展望良い

小高沢山
2387.2

